

2022年度 第2回町田市産業振興計画推進委員会
議事要旨

日時 2023年2月7日（火） 15時～16時30分

場所 町田新産業創造センター イベントスペース

出席者

大久保 英敏	委員（委員長）	玉川大学 名誉教授
多田 和美	委員（副委員長）	法政大学社会学部社会政策科学科 准教授
佐藤 正志	委員	町田商工会議所 専務理事
伊藤 亨	委員	株式会社町田新産業創造センター 専務取締役
菅野 英昭	委員	多摩高度化事業協同組合 事務局長
太細 貞治	委員	町田市経営診断協会 理事長
有田 哲二	委員	株式会社日本政策金融公庫 八王子支店長
（代理出席：日本政策金融公庫		八王子支店 融資第2課長 浅川 幹央 氏）
小山 克己	委員	株式会社三和 顧問
杉森 俊彦	委員	小田急電鉄株式会社
		まちづくり事業本部エリア事業創造部 課長
君波 英保	委員	町田公共職業安定所 次長

欠席者

長谷部 信樹	委員	株式会社キープ・ウィルダイニング
		執行役員 経営企画室 室長

事務局

町田市経済観光部産業政策課長 村上 和久
町田市経済観光部産業政策担当課長 岸 和志
町田市経済観光部産業政策課統括係長 渋谷 明宏
町田市経済観光部産業政策課担当係長 川崎 由美子
町田市経済観光部産業政策課担当係長 福元 貞栄
町田市経済観光部産業政策課担当係長 朽木 雄介
町田市経済観光部産業政策課主任 五十嵐 貴哉

傍聴者

なし

次第

- 1 開会
- 2 報告（１）２０２２年度 第１回委員会の議事要旨
- 3 議題
(１)「町田市産業振興計画１９－２８」前期実行計画の２０２２年度の取り組み結果について
(２)「町田市産業振興計画１９－２８」前期実行計画の２０２３年度の取り組み予定について
(３)「町田市産業振興計画１９－２８」後期実行計画の策定について
- 4 その他

配布資料

- 資料１ 委員名簿
- 資料２ ２０２２年度 第１回町田市産業振興計画推進委員会 議事要旨
- 資料３ 「町田市産業振興計画１９－２８」前期実行計画 ２０２２年度取り組み結果及び２０２３年度取り組み予定
- 資料４ 「町田市産業振興計画１９－２８」後期実行計画の策定について

議事録

- 1 開会
- 2 報告（１）２０２２年度 第１回委員会の議事要旨
- 3 議題
(１)「町田市産業振興計画１９－２８」前期実行計画の２０２２年度の取り組み結果について

< 1 「立ち上げる」チャレンジ >

■多田副委員長

項番１をはじめ、セミナーの実施回数を指標としている事業の評価が非常に高いが、開催回数が増えたことで評価が高いのか、あるいは参加者が増えたことで評価が高いのか。

■事務局

実施回数を指標としているため、◎の評価としているが、結果として多くの方にご参加いただいたセミナーもある。

■伊藤委員

まちだキッズアントレプレナープログラムは、小学生を対象に夏休みに実施していることもあり、ＩＴ教室が定員３０名で応募３０名、当日参加２７名、マネー教室は定員４０名で応募４１名、当日参加３６名、発明教室は定員２０名で応募１８名、当日参加１５名、まちだ女性創業スクー

ルの入門編は定員15名で応募15名、最終まで参加したのが11名、実践編は定員15名で応募18名、最終まで参加したのが13名となる。いずれも応募者は多かったが、コロナ感染等で当日欠席が発生している。

■大久保委員長

今後、定員を増やす予定はあるのか。

■伊藤委員

参加型のセミナーや個別支援を行う内容のスクールなどがあるため、講師と相談しながら検討していく。

■浅川代理

セミナーを開催する際に、集客が課題となることがある。どのような仕掛けで行っているのか。

■伊藤委員

まちだキッズアントレプレナープログラムは、市内小学校全校の対象学年にチラシ（兼申込書）を送付している。女性創業スクールはHP、SNSでの発信に加え、広報まちだも非常に有効であると感じている。

■浅川代理

コロナ禍でオンライン形式での開催が浸透したが、この傾向は常態化するのか、今後もオンライン形式が主導となるのか。

■伊藤委員

対面でしかできないものは対面、もしくはハイブリット形式を検討する、若者創業スクールは当初オンラインで行う方向で進めていたが、顔の見える関係を重視したため、全7回のうち、最初と最後は対面としたり、参加者の中で、社会人や他県の大学生もいたため、ハイブリットで開催したりした。今後については、内容や状況に応じて、対応していくようになると思う。

■浅川代理

受講された方のアフターフォローのシステムはあるのか。

■伊藤委員

女性創業スクールはLINEでグループを作成し、情報交換をしている。若者創業スクール参加者で事業化した方は、今後町田新産業創造センターが実施するセミナーでの登壇など、事業マッチングを検討している。

<2 「拡げる」チャレンジ>

■太細委員

項番19にあるビジネスアドバイザー等の派遣は、町田市トライアル発注認定制度に対する出口支援であるが、派遣している事業者はいずれも有望であると感じている。相談内容としては、販売促進、運営管理、海外展開等があり、例えば海外展開については、そのことに知見のある中小企業診断士に担当してもらっている。事業者からの評判も、非常に好評なので、引き続き事業を継続してほしい。このように、出口支援は整ってきているように感じているため、今後は応募の

ハードルを下げるような入口支援を検討してほしい。

■大久保委員長

トライアル発注認定制度は町田市産業の活性化に向けて効果的と感じている。先ほどのハードルを下げるという話は、申請書類の書き方相談などのサポートがあると良いのではないだろうか。脱コロナということもあり、ここが良いタイミングであると考え。早期に実現してほしい。

■伊藤委員

申請者の中には、プレゼンが得意ではなく、説明に時間がかかってしまう方がいるように思う。プレゼンを含め、審査にかかる時間を検討しても良いのではないか。

■大久保委員長

町田に限らず、世界的な展開をしていくためには、プレゼン能力の向上支援も必要に感じる。

< 3 「つなぐ」チャレンジ >

■佐藤委員

項番34、項番52「合同会社説明会・面接会 in 町田」は同じものか。何社くらい参加があり、マッチングはどれくらい生まれたのか。

■君波委員

同じである。参加者は延べ115人、企業ブースは19社であった。事前予約なしでこの参加者数は、これまでと比べて多いと感じている。当日面接まで実施したのは11件、説明のみが40件、実際の就職に結びついたのは1件となった。参加企業は人手不足な業界が多く、今後若者を集めるためには、彼らが興味を持つ企業を呼ばないと難しい。SNSの使用が今後の課題ではあるが、参加人数を含め全体として成功したと感じている。

■佐藤委員

商工会議所の会員事業所も人の獲得に苦労している。今後は行政とも協働して取り組んでいきたい。

■大久保委員長

これからスキマ時間で兼業する雇用形態が増えてくるのではないか。兼業で経験を積んだ後に就職してもらうようなスキームを検討しても良い。兼業を町田市としてどのように捉えるかも課題となっている。定年後の世代も活用できる人材と捉えてもよい。また、インターンシップを活用するのも良いのではないか。開催時期は、8月よりも大学3年生の年明けの時期を狙うのも良いと考える。大学のインターンシップの取り扱いも変化してきているため、状況を確認しながら進めてほしい。

■伊藤委員

項番35「キャリア形成・人材育成研修の開催回数」については、町田新産業創造センターが入居企業に行っている新入社員研修を件数として捉えることは可能か。

■事務局

検討する。

< 4 ビジネスしやすく、働きやすいまちづくり >

■大久保委員長

取組の評価で、△が目立つように感じている。コロナの影響があるのか。

■佐藤委員

項番56にある「キラリ☆まちだ祭」は3年ぶりに開催できた。数字上の来街者はこれまでより減少しているが、コロナ禍であったこともあり、体感としては来街者が非常に多く感じたという意見も多数伺っている。今後は高い評価となっていくのではないかと感じている。

■杉森委員

項番51「子どもや学生を対象とした職業体験等」は、何月頃に実施しているのか。

■伊藤委員

まちだキッズアントレプレナープログラムは夏休み、若者創業スクールは夏と秋、高校生向けセミナーは1月、インターンシップ受け入れは12月と2月に実施している。

項番49「企業等立地」の取り組みとして、東京町田オープンイノベーションプログラムの副次的な効果として、全国のスタートアップに対して町田への関心を高めている。今後取り組み予定にに入れることはできないか。

■事務局

後期実行計画で検討していく。

■伊藤委員

東京町田オープンイノベーションプログラムのような取組は、大手企業、政令指定都市、金融機関が行っているが、基礎自治体レベルではなかなか実施していない。町田への関心を高める取り組みであると感じている。

(2)「町田市産業振興計画19-28」前期実行計画の2023年度の取り組み予定について

■大久保委員長

広報活動について、IT化によるペーパーレスな広報は検討しているのか。スマホ等で閲覧できるようにしてはどうか。

■事務局

興味のある分野を登録すれば、SNSで通知が来るようになっている。

■菅野委員

項番18トライアル発注認定制度の認定申請は4月からのため、納税証明が間に合わない場合があるが、提出書類は間に合わなくても良いのか。

■事務局

申請時点で最新のもので良い。

■浅川代理

「立ち上げる」、「つなぐ」の2つのチャレンジに関連して、壁にぶつかってしまう方がいると思

うが、セーフティネットとなるような仕組みがあるのか。商工会議所であればそのような機会もあるかと思うが、事業者は必ずしも商工会議所に所属しているわけではない。

■事務局

商工会議所、町田新産業創造センターの窓口で随時相談を受付している。

■伊藤委員

相談に来た方のフォローは随時行っている。東京都の創業サポート事業での定期面談も実施している。内容によっては商工会議所、弁理士会等と繋いでいる。

■浅川代理

市内で年間に開業している方はどれくらいいるのか。

■事務局

2021年度は法人が402件である。

■多田副委員長

プログラム、セミナーの達成目標は件数となっているが、より本質的な評価を取り入れていくべきではないか。今後の指標として、定員の充足率等が検討できる。また、△となっている評価について、改善策を入れていくべきだと考えるが、この表からは見えにくいと感じる。

■事務局

今後達成度がわかるような指標も検討していきたい。

■大久保委員長

参加人数を把握しているのであれば、別表のような形で委員会で提示しても良いのではないかな。

■菅野委員

法人の開業件数はわかったが、廃業件数はどうか。

■事務局

2020年度までは把握していたが、市役所内のシステムが変更となり、廃業数が把握できなくなっている。経済センサスの事業所数から把握していく。

■大久保委員長

前期実行計画はコロナ禍であったが、全体的に良い評価ではないかと考える。

(3)「町田市産業振興計画19-28」後期実行計画の策定について

■佐藤委員

コロナ禍で苦しい状況であるが、後期計画は大変重要な気がしている。アンケート結果は早く共有できると良い。

■小山委員

多様な取り組みを実施しているが、結果効果にどのようなものを求めていくのか、選ばれる街を目指すために、どのようなデータを指標とするか、といったように取り組みにより効果が上がったことがわかるような数値を把握できるようにした方が良い。

■事務局

計画の指標で成果を確認しているが、大きな枠で確認しているため難しいと感じている、市は経済センサスでの数字等のように、全体での状況把握以外は難しいため、この場で良い意見をいただき、後期事業計画に反映していきたいと考えている。

■小山委員

近隣市との地域間競争に勝つため、他市のように具体的な目標に落とし込んでいく街づくりをしないと勝てない。具体的な目標を積み上げていく必要があると感じている。

■浅川代理

町田市の人口は増えているように感じているが、どうか。

■事務局

町田市が行った将来人口推計では、今後人口は減少に転じる。現在は、社会増となっており、自然増ではない。0から14歳までの年少人口の転入超過数ではここ数年全国的に上位に位置しており、そのこともあり、人口増となっている。

■大久保委員長

市内の多様な人材を活用していくことも検討すべきである。

4 その他

事務局から事務連絡を行った。